
消防士 ~ 不可解な火災を解決せよ ~

SHIRANE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消防士 ～不可解な火災を解決せよ～

【Nコード】

N4851K

【作者名】

SHIRANE

【あらすじ】

消防士として日々、火災現場に急行する松村大智（21）。毎日のように起こる火災に目まぐるしく動き回っている中、ある火災現場で不可解なものを発見する。その物がさすものは？
いったいどんな結末を迎えるのか・・・。

登場人物紹介（前書き）

これが3つ目の投稿となります。

まだまだ未熟ですが、頑張って投稿していきたいと思っています。
それでは、ごゆっくりご覧ください。

登場人物紹介

登場人物紹介

松村大智（21）・・・3年目を迎える新人消防士。まだまだ失敗は多いけれど、鋭い洞察力を持っている。

青葉消防本部、青葉第2隊に所属している。

梶谷 正（42）・・・大智と同じ第2隊の小隊長。普段は温厚だが、ひとつ火災現場に行くと

性格ががらりと変わる。第

2隊では1番の年長者。

三木雄二（30）・・・30という若さで消防士長に駆け上がった。ポンプ車を操作する資格を有する。

何かと大智を気にかけている。

土居康平（20）・・・第2隊所属の消防士。大智1コ下で、人より少し失敗が多いところがたまにキズ。

大智に追い付こうと毎日奮闘している。

真田哲平（48）・・・青葉消防のポンプ隊を指揮する大隊長。普段はけんか早い性格だが、

現場では誰よりも冷静さを持つ。

木村琢磨（54）・・・青葉消防本部署長兼指揮隊長。ほかの

消防本部の絶大なコネを持つ。

現場に出ることはあまりないが、誰より隊員のことを思っている。

松浦 桜（21）・・・青葉消防本部救急隊に所属。救急車に乗りこむと性格がより厳しくなる。

大智に少し気を寄せている。

近藤浩太（32）・・・青葉消防本部救急隊隊長。通常、松浦と組んで業務を行う。

区域の道には人より精通し

ており、欠かせない存在。

登場人物紹介（後書き）

ご閲覧ありがとうございました。

次回より本編に入りますので、次回もお願いいたします。
ご感想やご意見などお待ちしております。

次回更新目安日・・・3月23日

住宅火災第一出場 〱青盛台3丁目5番地〱（前書き）

ごゆっくりご覧ください。

今回は住宅火災です。

住宅火災第一出場　＼青盛台3丁目5番地＼

第1話　火災指令　―住宅火災第1出場―

？　2011年3月20日　12時27分　？

？　青葉消防本部　通信指令室　？

「ピーピー、火災指令火災指令。青葉区青盛台3丁目5番水谷宅方、青葉1。」

青葉2・青葉指揮隊・青葉救急・第1出場。繰り返す・・・」
聞きなれた電子音を聞くと同時に1階へと駆け下りていく。
全重量で5？にもなる防火服を下から順に身にまとう。

先輩消防士は、一足先に消防車へと乗り込む。

一拍遅れて大智は消防車へと乗り込んだ。

「遅いぞ！！三木サイレン点灯、出場！！」

小隊長の梶谷さんが怒鳴ると同時にサイレンが点灯し、消防車が出ていく。

「ウーウーウーウー・・・」

今日も、サイレンが町にこだまする。

？　2011年3月20日　12時33分　？

？　火災現場　？

「青葉1現着、被災物件から黒煙上昇中。火元の、台所からなお火炎噴出中。」

先に到着した青葉1から情報が送られてくる。

「青葉消防、了解。追加情報を送る。現在1名の所在が判明していない、至急要救助者発見に全力を尽くされたい。どうぞ。」

「了解しました。ただちに要救者捜索に入ります。以上青葉1。」

青葉1が無線交信をしている間に、テキパキと消火栓にホースをつなぎ消火準備を整える。

準備が完了すると、隊長から指示が飛んだ。

「青葉各隊、放水開始。青葉2、要救者検索に入る！！」

隊長の号令で一斉に筒先から水が勢いよく噴き出す。

「青葉2室内検索に入る。呼吸器装着、筒先噴霧にて進入！！」

大智の役割は、筒先である。

それに伴って、人がいないかを目を凝らして見つめる。

「青葉205から青葉200へ、視界上に要救者を発見できず。どうぞ。」

小隊長に報告すると、指示が飛んでくる。

「青葉202と203は1階をくまなく搜索、青葉200と青葉205は2階へ！！」

「了解。」

梶谷さんと俺は、2階の検索に入った。

「誰かいませんか！！」

俺は必死に声を張り上げるけれど、火災現場では効果は期待できない。

目を凝らして探している最中、近くから

「・・・助け・て・・・下さ・い・・・」

と弱々しい声が確かに聞こえてきた。

声のする方へと駆けよっていくと、1人の女性が倒れこんでいた。

「青葉205から青葉200へ。要救者1名発見！！応援願います。」

無線を聞きつけて梶谷さんが駆け寄ってきた。

梶谷さんが要救者に問いかける。

「大丈夫ですか？消防のものです。今から脱出しますのでこの呼吸器を！！」

梶谷がつけていた呼吸器を要救者に装着させ、すばやく外へと脱出する。

要救者を救急隊に引き渡すと、梶谷が無線を手に取った。

「青葉200から捜索中の青葉2へ、要救者1名の所在を確認。至急建物外へ待避せよ。待避後、外から消火活動に参加する。」

火災現場から救急車がサイレンを鳴らして出て行った。

？ 2011年3月20日 1時13分 ？

？ 火災現場 ？

「青葉2より青葉消防。鎮火報・鎮火報、火元は完全に鎮圧した。只今の時間を持って帰署する。以上青葉2。」

「青葉消防了解。お疲れ様でした。」

消火活動を終えて、大智たちは消防車にのりこんで鎮火報のスイッチを押した。

「カーン、カーン、カーン・・・」

この音が鳴っているのは、消防士にとって一番幸せな時間なのかもしれない。

しかし、この時点では誰一人知らない。

大きな事件の前触れであることを・・・。

住宅火災第一出場 〱青盛台3丁目5番地〱（後書き）

ご閲覧ありがとうございました。

これからどんどん更新していこうと思えますので、
時間があればのぞいてみてください。
ご意見や感想お待ちしております。

次回更新目安日・・・3月26日頃（予定は変わる場合も
あります。）

火災報告書 3月20日住宅火災

第1話火災報告書

？ 2011年3月22日 10時45分 ？

？ 青葉消防本部 消防課 ？

「大智さん、この前の青盛台の火災の、調査課からの報告書が届きました。これが、書類です。」

土井に、調査課からの報告書が届いたら持ってきてくれと頼んでいたのだ。

大智は、この前の火災から何かが引っ掛かっていた。報告書に目を通していると、引っ掛かるところがあった。

「やっぱりそうだ！！ 道理でおかしいと思っただ。」

大智が引っ掛かっていたのは、台所の燃え方だった。どう考えても、ただの火災の燃え方には見えなかった。

調査書によると、台所付近から燃料加速剤が微量発見された。しかし、なぜあの家だったのだろうか？

「ふーん、なんかやな予感がするな…。」

大智の予感は、辛くも的中することになる。

それが、長い闘いの始まりだとは誰も思いもしなかった…。

？ 同日 10時48分 ？

「チカチカ…。」

大智は気づいていなかったが、パソコンのメールBOXが点滅していた。

内容はと言うと、「楽しみに待っているがいい。次はどこを燃やそうかな…。」

差出人は、REDとだけ書き込まれていた。

火災報告書 3月20日住宅火災（後書き）

ご閲覧ありがとうございました。

読んでみていかがでしょうか？

よろしければ、ご感想やご意見を一言お願いいたします。

その一言が、次の執筆の力になります。

お願いいたします。

次回更新目安日・・・ 3月26日頃 （変わる場合もあります）

ビル火災第三出場　＼青葉区本町2丁目2番地＼

第2話　火災指令　―ビル火災第3出場―

？　2011年3月23日　18時36分　天候　晴れ　？

？　青葉消防本部　消防課　？

今日は一日これといった火災出場はなかった。救急出場は多かったけれども・・・。

大智はこれ幸いと、溜めていた報告書を一気に書き上げていた。データベースに入れるのでパソコンを立ち上げると、メールが2件入っていた。

「あれ、メールが来てるな。しかも一件は昨日のじゃないか...。」
ぶつぶつ言いながらもメールを開くと、一つは同期からの労いのメールでもう一件はよくわからなかった。

「なにに...次はどこを燃やそうかなだと...なんだこのメール？」

不思議なメールだったので、小隊長の梶谷のところへ持っていた。

「なんなんだこのメールは？心当たりは？」

「もちろんありません!!」

2人が首をかしげていると、スピーカーから聞き覚えのある電子音声が始めた。

「ピーピー、火災指令火災指令。青葉区本町2丁目12番光葉ビル、青葉1・青葉2・青葉高所・

青葉指揮・青葉救急・第3出場。繰り返す・・・」

音を聞くと同時に走り出した2人は、防火服を身にまといながら話した。

「まさか、これがそうじゃないだろうな...？」

「わかりません？」

防火服を着ると消防車に乗車する。隊員が全員乗り込んだところで、三木がサイレンを点灯させ発進した。

（まさか、これがそうなのか？まさかあれば、犯行予告なのか！？調べないとな）

いろいろな思いをのせながら、町にサイレンがこだました。

？ 2011年3月23日 18時45分 天候 晴れ ？

？ 本町2丁目12番地 光葉ビル ？

「現場指揮者命、火災により鉄筋が弱っている可能性が高い。倒壊を防ぐため、4階部へ外部注水を行う う。青葉2以外は、1階から3階の検索に移れ！！」

携帯無線機から大隊長の真田の声が聞こえてくる。

「大智、高所で外部注水をおこなえ。その他は、待機。」

梶谷の命令を受けて、はしご車のバスケット部にのりこむ。

「圧5kg放水準備よし！！筒先、放水始め。」

通常より高い圧で放水を開始した。

4階部の外部注水をあらかた終えたその時、頭上から叫び声が聞こえた。

「助けて！！」

短い声だったが、大智には確かに聞こえた。

手元のボタンではしごを操作して、とりあえず5階部を確認した。しかし、人の気配はしなかった。

「助けて！！」

また聞こえた。どこからだ！！しかし、さっきより近い。

6階部へ到着すると、人影が見えた。

「大丈夫ですか！！」

大智が声をかけると、びっくりして何処かへ行ってしまった。

大智は急いで下に連絡をとった。

「青葉205から青葉200へ。6階部で人影を視認、搜索許可を！！」

「青葉200から青葉205へ。了解した、下から3人向かわせる！！要救者発見を最優先として

検索を行え。」

梶谷の声が念を押すように聞こえた。

「了解しました。」

大智は、そう言っ6階の窓に足をかけた…。

つづく…。

ビル火災第三出場　く青葉区本町2丁目2番地く（後書き）

ご閲覧ありがとうございました。

大智は、6階の検索に入るが一体どうなるのか・・・。
ご意見や感想をお待ちしております。

次回投稿目安日・・・ 未定

ビル火災第三出場中 — 6階検索開始 — (前書き)

更新が遅くなつてすみません。
ごゆっくりご覧ください。

ビル火災第三出場中 ― 6階検索開始 ―

第3話 ビル火災第三出場 ― 6階検索開始 ―

？ 2011年3月23日 18時50分 天候 晴れ ？

？ 光葉ビル 6階 西側フロアー ？

「青葉205から青葉200へ。6階へ到着、指示願う。」

大智が携帯無線に向かって口を開いた。

「青葉200了解、要救助者検索に全力を挙げろ。以上。」

柏谷の指示に了解と呟いて、合流場所である階段へ向かった。

合流場所は、その部屋を出たすぐの場所にあつた。

「大智、状況は？ つてまだ検索してねえよな？」

木田さんが、話かけてきた。

「そりゃ、まだですよ。なんていつてる暇ないですよ。」

そつだなと呟いて、どう分けるか相談してきた。

「奥に逃げた可能性が高いので、三木さんと僕で奥を検索、

木田さんと土井は南側フロアーの検索と消火を――！」

大智の声を聞くと、それぞれが検索に移った。

？ 2011年3月23日 18時48分 ？

？ 光葉ビル ？階 南側フロアーの一室 ？

「ふつ、今頃きやがったのか。まあ、もう遅いけどな……」

不穏な空気が、この部屋を取り囲んでいた。

「しかし、どこに逃げたんだ。復讐はまだ、これからだ……」

そついうと、違う部屋へと移動し始めた。

？ 同時刻 光葉ビル 12階 北側フロアー社長室 ？

「なんでこんな目に俺がならなければならなんだ。くそ……」

一人つぶやいたが、誰にも聞こえる事はない。

「くそ、こんなことで・・殺されてたまるか!!」

そう言うのと社長室を飛び出した。それが自分の首を絞める羽目になるとは、思っても見なかっただろう。

？ 同日 18時53分 光葉ビル6階 北側フロアー ？

「誰かいませんか!!」

大智が叫んだが返事は返ってこない。

「青葉201から青葉200へ。要救者いまだ発見に至らず、
継続して搜索に当たる。追加情報はないか、どうぞ。」

三木さんが、柏谷に無線連絡を入れるとすぐに返ってきた。

「青葉200から各位へ。追加情報を送る、火元が判明した。

6階の給湯室付近から出火したらしい。」

無線から流れてくる声に耳を澄ますと、近くが火元らしい。

「三木さん、近くです。先に消火しましょうか?」

「そうだな、火元を鎮圧した方が検索しやすいかもしれん。」

その時、無線に通信が入った。

「こちら、青葉203。南側の検索終了、応援に向かう...どうぞ。」

ナイスタイミング!!心の中でそう呟いて、返答した。

「青葉205了解、至急願います。」

大智が、無線連絡を取っている間に三木は、鎮圧に懸っていた。

「プシュユユ...」

二人の放水が効をそうしたのか、火がどんどん小さくなっていく。

「大智、こっちはどうだ!!」

そのタイミングで、木田さんたちが到着した。

「もう少しで・・鎮圧できそうです。」

高い圧がかかるホースを握っているので、声が若干震える。

「プシュユー!!」

大きな音が少し響いたと思ったら、火元が完全に沈黙していた。

「よし、火元は鎮圧。二手に分かれて、検索するぞ!!」

それぞれ、三木さんの号令で検索に移った。

大智たちは、北側の倉庫Aの部屋を搜索していた。

「誰かいませんか!!」

大智の声が響くが、返答がないと思ったその時、

「助けて・・・」

弱々しい声のはつきりと聞こえた。

声のする方に大智と三木が走ると、そこには怪我をした女性がいた。

「大丈夫ですか？ 一人で立てますか？」

三木が聞くと、弱々しく首を横に振った。

「大智、この女性を背負え！」

「はい、もちろんです。」

即答して、女性を自分の背中に乗せると三木が無線連絡を始めた。

「青葉201から青葉200へ。要救者発見、至急救助を回して下さい。」

三木が無線連絡を入れると、すぐに返答が返ってきた。

「こちら青葉200。要救者を搬送後、至急北側オフィスに向かえ。要救者の所在が1名確認されたが、瓦礫にふさがれ中に入れない。」

三木も大智も驚いたが、ひとまずこの要救者を搬送する事にした。

？ 2011年3月23日 19時05分 ？

？ ？階 廊下 ？

「ふっ、どこに隠れたって無駄だよ・・・。」

不穏な空気を出しつつ、誰かを探しているようだった。

一体、この男の狙いは何なのだろうか・・・？

つづく...

ビル火災第三出場中 ― 6階検索開始 ― (後書き)

読んでくださってありがとうございます。

更新が、今までより遅いですが更新は続けていきますので、
気が向けばのぞいてみようかな？程度で結構ですの読み続けて
くだされば幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4851k/>

消防士 ～ 不可解な火災を解決せよ～

2010年10月9日23時56分発行